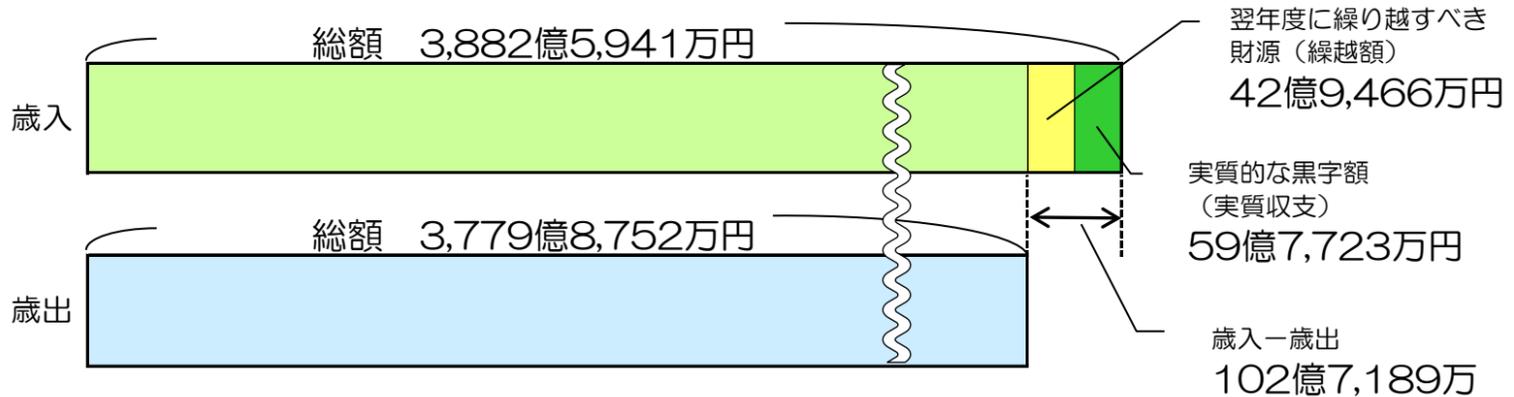


平成30年度の決算概要

各会計の歳出規模

◇会計の種類と決算歳出規模

○一般会計の決算 ≪福祉、医療、教育や道路・公園整備など基礎的な行政サービスを行う会計です≫



○特別会計の決算 ≪国民健康保険会計や競輪事業会計等、特定の事業を特定の収入によって行う会計です≫

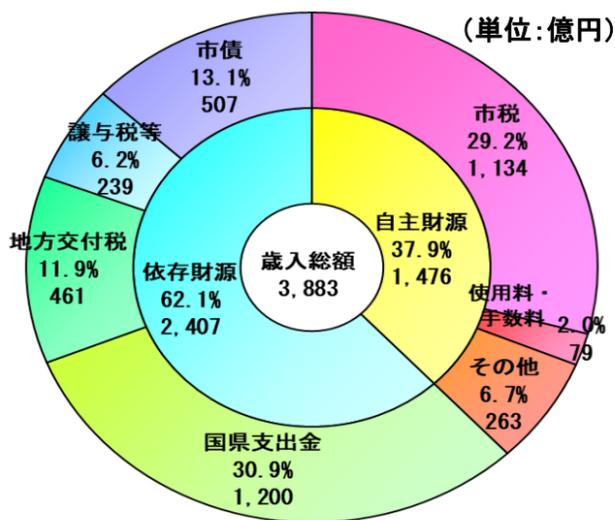
歳入A	歳出B	差引C=A-B	繰越額D	実質的な黒字額(実質収支) E=C-D
2,034億円	2,011億円	23億円	1億円	22億円

○公営企業決算 ≪水道や下水道、病院、電車など、民間企業と同じように運営している会計です≫

収益的収入A	収益的支出B	差引C=A-B
407億円	388億円	19億円

一般会計の歳入決算額(収入)

◇平成30年度歳入決算額 3,883億円



一般会計の歳入決算額は3,883億円となり、前年度と比べ266億円の減少となりました。

自主財源のうち市税は、個人市民税の増加等により、1,134億円、対前年度140億円の増となりました。

依存財源については、これまで熊本県が負担していた市立の小・中学校の教職員の給与負担が熊本市へ権限移譲されたことに伴う財源措置について、平成29年度は一時的に交付金として措置されていたものが、平成30年度から税源移譲されたことにより大幅に減少しました。

〔歳入の内訳〕

() 内は前年度の数值

自主財源 1,476億円 (1,363億円)

⇒市税や施設の使用料など、地方自治体が自主的に収入できる財源

市税 1,134億円 (994億円)

市民税 589億円 (454億円)

個人市民税 488億円 (354億円)

⇒給与収入などに応じて納めていただく住民税

法人市民税 102億円 (100億円)

⇒市内に事業所がある法人に納めていただく税

固定資産税 401億円 (397億円)

⇒土地や家、ビル等を持っている方に納めていただく税

都市計画税 52億円 (52億円)

⇒市街化区域内に土地や家などを持っている方に納めていただく税

市たばこ税 51億円 (52億円)

⇒市内でたばこを買った方に納めていただく税

その他の税 41億円 (39億円)

⇒軽自動車等を保有している方に納めていただく税など

使用料・手数料 79億円 (78億円)

⇒利用者などに負担していただく料金収入(市営住宅や市の施設の使用料など)

その他 263億円 (291億円)

⇒宝くじ販売による収入や、市の財産の売却や貸付による収入など

依存財源 2,407億円 (2,786億円)

⇒事業の内容等により国や県から交付される財源や施設等の整備のため借り入れる財源

国県支出金 1,200億円 (1,415億円)

⇒特定の事業に対して、国・県から使いみちを指定して交付されるお金

地方交付税 461億円 (454億円)

⇒地域ごとの状況の違いによって地方税収の差などを調整するため、国から交付されるお金

譲与税等 239億円 (325億円)

⇒いったん国税や県税として徴収し、配分されるお金など

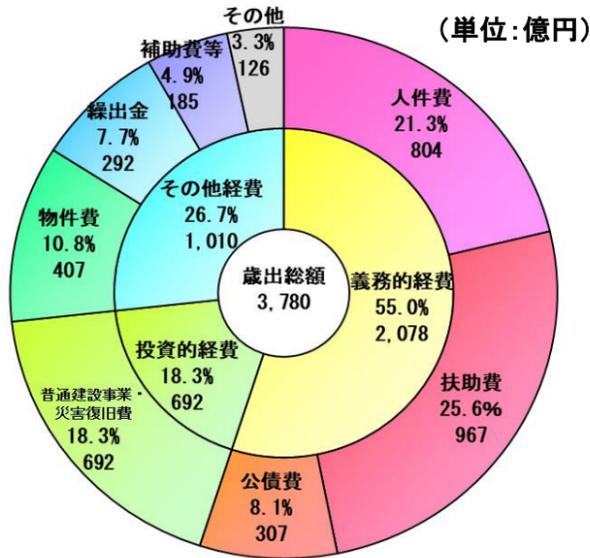
市債 507億円 (592億円)

⇒道路や公園等の整備のために借り入れるお金や、地方交付税の代わりに借り入れるお金

一般会計の歳出決算額

◇平成30年度歳出決算額 3,780億円

○性質別経費（歳出を経費の性質に着目して分類したもの）



一般会計の歳出決算額は、3,780億円となり、前年度と比べ247億円の減少となりました。これは、災害廃棄物処理経費などの熊本地震関連事業が減少したことによるものです。

〔歳出の内訳〕

（ ）内は前年度の数値

義務的経費	2,078億円 (2,068億円)
人件費	804億円 (796億円) ⇒市役所で働く職員の給料、退職金などの経費
扶助費	967億円 (961億円) ⇒生活に困窮する人の保障や児童福祉などの経費
公債費	307億円 (311億円) ⇒公共施設を建設するときなどの借入金の返済金
投資的経費	692億円 (613億円)
普通建設事業	562億円 (458億円) ⇒道路、公園、学校などを整備、建設する経費
災害復旧事業	130億円 (155億円) ⇒公共施設等の災害復旧に要する経費
その他経費	1,010億円 (1,346億円)
物件費	407億円 (744億円) ⇒市の施設を管理する経費やシステム管理の経費のほか、消耗品や備品などの経費
緑出金	292億円 (278億円) ⇒特別会計や企業会計に対し、一般会計から拠出する経費
補助費等	185億円 (202億円) ⇒公益性の高い団体や事業などに対する補助金や負担金など
その他	126億円 (122億円)

○目的別経費（歳出をサービスの目的で分類したもの）

目的別	決算額 A	参考 H29			
		市民1人あたり	構成比	決算額 B	A-B
民生費	1,327億円	181,301円	35.1%	1,316億円	11億円
教育費	612億円	83,614円	16.2%	633億円	▲21億円
土木費	495億円	67,629円	13.1%	494億円	1億円
総務費	346億円	47,272円	9.2%	337億円	9億円
公債費	307億円	41,944円	8.1%	311億円	▲4億円
災害復旧費	204億円	27,871円	5.4%	502億円	▲298億円
衛生費	183億円	25,002円	4.8%	170億円	13億円
商工費	131億円	17,898円	3.5%	78億円	53億円
消防費	90億円	12,296円	2.4%	79億円	11億円
農林水産業費	69億円	9,427円	1.8%	92億円	▲23億円
その他	16億円	2,187円	0.4%	15億円	1億円
合計	3,780億円	516,441円	100.0%	4,027億円	▲247億円

※平成31年3月31日時点における熊本市の人口（731,933人）

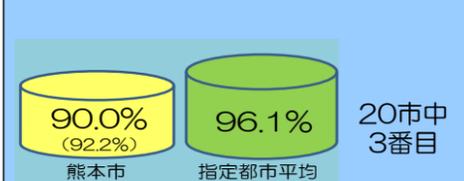
災害復旧費は、熊本地震に係る災害廃棄物処理経費などの震災関連経費が減少したことに伴い、298億円減少しています。また、商工費については、熊本城ホール整備事業費などの増加により、前年度と比べ、53億円増加しています。

熊本市の財政状況

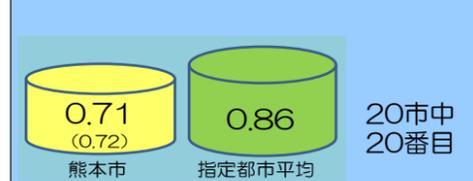
○市民一人あたりの市債残高



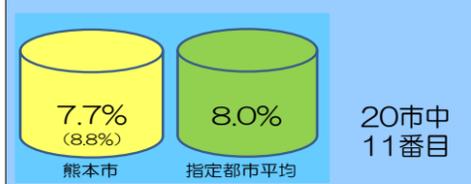
○経常収支比率



○財政力指数



○実質公債費比率



○将来負担比率



○資金不足比率

全ての対象会計について、資金不足0